

旅から帰ってきて数日が経ちました。レポートを書こうとするのですが、思い出がたくさんありすぎて、言葉にならないのが本当のところですよ。

そんな中ではっきりとしているのが、本当に人に恵まれた旅だったということです。楽しく私達をひっぱってくださったリポーンの吉岐さん・今井さんをはじめスタッフの皆さま。ツアーを盛り上げてくださったメンバーの皆さま。ホキアング地方で私達をあたたく迎え入れてくださったFootprintsのKoro-san・愛さんをはじめ現地の皆さま。この旅がスムーズに進むよう陰ながら支えてくださった関係機関の皆さま。みんながそこにいてくださったからこそ、楽しめた旅でした。弟との2人参加でしたが、エコツアーに興味があって参加した私も、海外旅行初体験の弟も、それぞれに多くを吸収して、人生を変えるほどの経験をさせて頂いたと思っています。

4泊6日の旅の中で、どの思い出も甲乙つけ難いのですが、やはり一番の思い出は、ホキアング地方での3日間です。ニュージーランド最大の人口数を誇る北島のオークランドより、車で北に4時間のところにホキアング地方があります。ホキアング地方はマオリの方々が昔より暮らしてきた場所であり、そこには今もマオリの文化が深く根差しています。「マオリの文化」というと、旅行出発前は、民族衣装にタウ・・・と、適切な表現かわかりませんが、絵に描いたような原住民の方々のイメージがありました。でも、実際オークランド空港で待っていてくれたマオリのKoro-sanはニット帽をかぶってハーフパンツスタイル！私はいきなり面食らい、と同時に想像もつかないマオリの世界に自然と惹かれていきました。マオリの生活の中には、マラエという集会所が存在します。私達は、ホキアング地方に滞在する際、このマラエにて、この地に足を運ばせていただいたこと、マオリの方々と私達が出会わせていただいたことを、八百万の神様に感謝する儀式に参加しました。その儀式の中には、マオリ語と英語で何度となく「thank you」が繰り返されました。「そこにあなたがいてくれる幸せ。それがすべて。」その心は、マオリの地に根付いていて、その後の地元の方々との交流の中にも度々耳にしました。互いに祈り、歌い、心が通じあったとき、静寂に包まれた広い大地の中、一つの灯りがともったマラエの中は、みんなのあたたかい気持ちで満たされていたように感じました。そして、このようなマオリスタイルは、懐かしいふるさとのような、そんな感じのするものでした。

また、このホキアング地方には、カウリという固有種の樹木、ニュージーランドのトレードマークにもなっている多種類のシダ、キウイトウイ・ファンテールなどの野鳥をはじめとする、自然豊かなワイポウアの森(マオリ語で夜のうるおう森の意)があります。ニュージーランドは伐採の歴史を持つ国ですが、だからこそ、ニュージーランド環境保全省(DOC)の管理・保護という形、個人による植林という形(今回植林も体験)、思い思いの形で自然を守っている今があります。今回私達は、現存のカウリの中で最も大きいとされる樹齢1200年の森の神「タネ・マフタ」と、最古とされる樹齢4000年の森の父「テ・マツナヘレ」に、マオリの方々のお導きのもと、会うことができました。マオリの歌を聴きながら、目に映る、空に突き抜けるような偉大な姿は、息をのむほどに美しく、この上ない幸せを感じました。そして、ここにいることやもとより家族や友達に、ただただ感謝したくなりました。

また、私達は、今回の旅行の一大イベントでもある第一回 Waipoua Forest Fun Run and Walk 2008 Event にも参加することができました。リポーン・Footprints・その他多くの関係機関・地元のボランティアの皆さまのおかげで開催されたこのイベントは、ワイポウアの森の中を自分の足・ペースで、走り、歩

くことで楽しむというものです。地元から 150 名ほどの参加もあり、私と弟は地元の方と12km を3時間かけて、会話や植物を楽しみながら満喫しました。また、日本よりノルディックウォーキングにてこのイベントに参加されていた方々も多く、弟と私はこのスポーツを教えていただきながら、このイベントをさらに楽しみました。

ホテルや小さなお店以外何もないこの土地に、たくさんの不便はあったのですが、何よりも大切なものはそこにたしかにあったと思うのです。というよりも、「何もない」のではなく、もうすべてはそこにあったのだと思います。私達すべての起源のようなホキアング。広い大地の中で、静かに夜を迎えては朝日が昇り、人々は自然に抱かれて生活する。はじめはもの寂しく感じたそのホキアングのリズムが、地球の鼓動のように感じられました。

そのような命の源のようなこの場所で、その土地の一員として受け入れられたこと、大自然や文化を堪能させていただいたこと、時にはアットホームなバーで地元の方とお酒を飲んだり、ビリヤードをしたり、ダンスをしたりしたこと。ホキアングでの3日間は、シンプルで、それでいて最高のぜいたくでした。

このように、ホキアングの日常をありのままに体感できたことは、本当にありがたいことでした。同時に、私事ではありますが、一緒に参加した 6 歳下の弟と、この旅を通して絆を深めることができたことも、うれしかったです。このツアーに関わったすべての皆様へ。本当にありがとうございました。皆様がお元気で幸せでありますように。そして第一回目であったこのツアーの、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

そのような命の源のようなこの場所で、その土地の一員として受け入れられたこと、大自然や文化を堪能させていただいたこと、時にはアットホームなバーで地元の方とお酒を飲んだり、ビリヤードをしたり、ダンスをしたりしたこと。ホキアングでの3日間は、シンプルで、それでいて最高のぜいたくでした。